

政治とは、真心を持って、真実を伝えること

今地方政治が注目されています。一つは国の主要施策である地方創生です。もう一つは、出鱈目な地方議員の行動などがメディアに取り上げられ、地方議会の資質が問われていることです。政治とは「真心をもって真実を伝えること」。これは石破茂地方創生担当相から私が直接教えて頂いたことです。出来もしないことを「あれもこれもやる」というのは、真実を伝えていませんし、上記の出鱈目な議員を含め、街頭やチラシだけは勇ましいが、議会の場では何もしないのは、真心を持っていないのだと思います。当たり前のことですが、本当に大事なことだと考えています。

地方創生と京都市

地方創生とは、地方を活性化させ、東京一極集中から、足腰の強い地方の景気回復を如何に作っていくのか、或いは少子化対策など人口変動へどう取組んでいくかであり、地方自治体がどのように対応をするかが大きな課題となっています。平成27年度の京都市予算は、東京一極集中を打破し、「人口減少社会」に挑戦する予算と銘打たれており、京都経済の活性化、子育て環境・教育環境・福祉などの充実や都市基盤整備などに重点が置かれています。正に地方創生と呼応した予算編成となっており、我々が要望していたことが結果として表れたものと評価しています。

京都市の議会改革

次に京都市の議会改革ですが、私は本来の議会改革とは、市民の権利である議員（市民の代表）をいかに優秀な人材にしていくか、また議会が行政の施策をしっかりと監視し、無駄な事業がないかなど、チェック機関としての役割を十分に発揮できるようにするかと考えています。出鱈目やパフォーマンスの議員ばかりでは、人数が多かろうが少なかろうが議会は機能しません。また、合議制（みんなで話し合っただけで結論を出すこと）である議会では、それぞれが意見を持ち寄り、落とし所を決めていくものです。ですから、自分の意見が通らないと、ひたすら文句を行っているのも同様で、それは議会改革とは程遠いものです。

自民党市会議員団は議会改革でもイニシアチブを取り、我々の思い通りにはなりませんが、議員定数の削減にも結果を出してきました。また、議会基本条例を策定し、通年議会を100万人以上の政令市で始めて導入するなど、議会機能の充実にも答えを出してきました。

結果に拘る政治

このように自民党市会議員団は、市の予算に対しても、施策に対しても、また、政策立

案でも結果を出すことに拘ってきました。それは、市民から一番多く信託を受けた市議会の最大会派であり、責任政党であるからです。私は、40代と言う異例の若さではありましたが、自民党市会議員団の団長を今期2年間務めさせて頂きました。この間、議員団の先頭に立って、市長や行政と時には厳しく対峙し、時にはしっかりと連携し施策を進めて参りました。そして何よりも結果に拘る政治に努めて参りました。

これからも責任政党である自民党議員団の一員として、また4人の子どもを持つ責任世代の代表として、今をしっかりと見つめ、次世代を考えて行く政治を進めて参ります。3期12年の暖かいご支援の下、様々な経験・実績を積ませて頂きました。この経験を更に活かせるよう、真心と真実の政治にしっかりと取組んで参ります。